

2019 年度事業報告

自 2019 年 4 月 1 日
至 2020 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(8)
6. 専門医制度委員会	(9)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(16)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(17)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(18)
(2) 監事	(18)
(3) 評議員	(19)
(4) 退任した役員等	(24)
(5) 役員等の報酬等	(24)

② 会員に関する事項 (25)

③ 職員に関する事項 (25)

④ 役員会等に関する事項 (25)

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項 (31)

⑥ 重要な契約に関する事項 (31)

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(32)
2. その他の記載事項	(33)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第64回日本透析医学会学術集会・総会は、和歌山県立医科大学 腎臓内科学講座 教授 重松 隆会長が主宰し、2019年6月28日（金）、29日（土）、30日（日）の3日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。

今回のテーマは「From Japan to World, From World to Japan 腎代替療法（Renal Replacement Therapy）は未来をめざす」を掲げて開催し、参加者は22,379名であった。

<招待講演>

「Person centered care for older adults with kidney disease」Ann O'Hare (University of Washington, Seattle, WA, USA), 「Malnutrition and Sarcopenia of Dialysis Patients」Kamyar Kalantar-Zadeh (University of California Irvine (UCI), Orange, California, USA), 「Mortality Rates Associated with Emergent Versus Elective RRT for AKI in the ICU」John A. Kellum (The Center for Critical Care Nephrology, CRISMA (Clinical Research, Investigation, and Systems Modeling of Acute Illness) Center, Department of Critical Care Medicine, University of Pittsburgh, Pittsburgh, USA), 「Home Dialysis : An Australian Perspective」Peter G Kerr (Monash Medical Centre and Monash University, Clayton, Vic, Australia), 「Vascular 'Inflammaging' drives calcification in Chronic Kidney Disease」Catherine Shanahan (King's College London, London, UK), 「Role of native vit-D in CKD-MBD」Kuo-Cheng Lu (Fu-Jen Catholic University Hospital, New-Taipei City, Taiwan, Republic of China)

<特別講演>

「医療における人工知能—機械学習の最新応用事例と今後の展望—」, 「AIが医療を変えるか～診断から経過予測まで～」, 「今後の日本の医療政策」, 「地域包括ケアの看護のあり方」, 「義父 日野原重明の晩年」, 「透析医療と医療経済—透析分野の臨床経済的な価値を考える」, 「心不全診療の現状と課題」, 「循環器治療の進歩～低侵襲心臓治療の現状と展望～」, 「バイオ 3D プリンタを用いた細胞製人工血管の臨床応用について」

<会長講演>

「自分自身の透析医学研究の歩み：運を大事にして領域を広げる」

<学会緊急企画>

「3月7日新聞報道に対する日本透析医学会の見解と対応」, 「透析液排液の適正な処理について」

<教育講演>

「腎移植 透析医療と腎移植医療の連携」, 「透析患者における感染症対策」, 「エリスロポエチン産生制御と赤血球造血」, 「協働の意思決定 (Shared Decision making)」, 「血液透析患者に対するC型肝炎治療の進歩」, 「透析と遠隔医療」, 「私の行ってきたバスキュラー管理」, 「透析患者の高リン血症への栄養介入」, 「新腹膜透析ガイドライン2019～どうしたらよりよい腹膜透析ができるか～」, 「腹膜透析の基礎と臨床から」, 「認知症関連について」, 「医療安全：看護師の立場から～効果的な照合を行うために」, 「コメディカルのための臨床研究入門」, 「透析患者の薬物療法」, 「血液浄化膜の分類と選択」, 「CKD-MBDの基礎と新たな概念」, 「慢性腎臓病 (CKD) 患者における鉄代謝」, 「敗血症に対する血液浄化療法の変遷と将来」, 「透析患者のフットケア」, 「透析量から考える血液透析と腹膜透析の相互理解」, 「公正な研究を目指して～医師・医学研究者が知っておくべきこと」, 「透析患者の心を支えるサイコネフロジー」, 「透析患者におけるフレイル対策としての腎臓リハビリテーション」, 「透析と高血圧：JSH2019」, 「透析かゆみ対策」, 「透

析患者の周術期管理～ターニングポイント～, 「今さら聞けない統計解析入門」, 「HDF」, 「患者安全の全体像」, 「世界の透析事情」

<合同企画シンポジウム>

日本腹膜透析医学会・日本透析医学会合同企画:「腹膜透析の普及に向けて～日本の4大PD実施施設からの知恵と勇気～」, 日本血液浄化技術学会・日本透析医学会合同企画:「血液浄化療法における医工連携」, 日本腎不全看護学会・日本透析医学会合同企画:「透析看護認定看護師の歩みと実績と今後の課題」, 日本腎臓学会・日本透析医学会合同企画:「高齢化社会における療法選択のポイントは?」, 日本臨床腎移植学会・日本透析医学会合同企画:「腎代替療法の治療選択としての腎移植～現状と課題～」, 日本骨形態計測学会・日本透析医学会合同企画:「骨組織から考えるCKD-MBD」, 日本腎臓リハビリテーション学会・日本透析医学会合同企画:「多職種チームによる透析運動療法」, 日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会合同企画:「薬物療法」, 日本泌尿器科学会・日本腎臓学会合同企画:「Onco-Nephrology」, 日本急性血液浄化学会・日本透析医学会合同企画:「AKIにおける血液浄化療法」

<シンポジウム>

「Cardio-Vascular Disease (CVD)」, 「在宅透析患者の重症化予防(在宅透析患者をどのように支えるか?)」, 「医療経済」, 「透析医療における終末期医療1」, 「インパクトある臨床研究」, 「透析医療における臨床工学技士業務の展望を考える」, 「CKD-MBD-2」, 「透析看護とケアの再考—看護師として, 患者に提供するケアとは—」, 「腎不全外科」, 「JSDT・TSN・KSN合同シンポジウム」, 「透析医療と悪性腫瘍」, 「再生医療」

<ワークショップ>

「バスキュラーアクセスの手技とエビデンスの進歩」, 「医学ビックデータとICTの活用の最前線」, 「拡がるCKD-MBDの概念」, 「透析医療における食事療法のパラダイムシフト:制限から励行へ」, 「透析医療のイメージ戦略」, 「透析患者における感染症」, 「バスキュラーアクセス:インターベンション技術の進歩」, 「腎性貧血」, 「透析医療における終末期医療2」, 「透析液清浄化の盲点はどこにあるのか?」, 「腎代替療法の多様性と療養生活支援 看護実践と課題」, 「透析患者における注目すべき栄養素, 微量元素, 微量栄養素」, 「症例から末期腎臓病患者の大動脈弁狭窄症の治療戦略を考察する」

<学会・委員会企画>

危機管理委員会企画:「経験に学ぶ透析医療の災害対応」, 腎不全総合対策委員会企画:「良好な transition と予後に影響を及ぼす問題点を考える」, 学術委員会企画:「ヘモダイアフィルタの性能評価を考える」, 統計調査委員会企画:「JRDRの10年展望」, 専門医制度委員会企画:「専門医制度の現状と課題」, 学術委員会企画:「Year in review 2018」, 統計調査委員会企画:「Epidemiological diversity of mortality risk in CKD-MBD and nutrition」, 危機管理委員会企画:「透析療法における医療安全を考える」, 総務委員会透析医療専門職資格検討委員会企画:「透析医療専門職の新資格制度創設に向けて」, 男女共同参画推進委員会企画:「TSUBASA PROJECT」, 血液浄化に関する新技術検討委員会企画:「血液浄化に関する新技術 from Japan to World」, 保険委員会企画:「透析医療における診療報酬」

<国際学術交流委員会プログラム>

「Free Communication 1」, 「Free Communication 2」, 「Free Communication 3」, 「Free Communication 4」, 「Free Communication 5」, 「Symposium 1 Renal Replacement Therapy in Each Country」, 「Symposium 2 The Worldwide Status of AKI Therapy」, 「Free Communication 6」

<企業共催シンポジウム>

「慢性腎臓病におけるリンと鉄の最前線」, 「腎代替療法の適正な普及に向けて～腹膜透析の進歩と現状～」, 「慢性腎臓病治療における亜鉛補充療法の新たな展開～血清亜鉛測定と亜鉛補充の意義～」, 「カルシミメティクスによるCKD-MBD治療」, 「腎代替療法を考える～Shared Decision Making～」, 「血管石灰化 up to date」, 「DOPPS Symposium」, 「腎性貧血の現状と展望」, 「心血管疾患とミネラル代謝を結ぶ

“点”と“線”」

<企業セミナー>

モーニングセミナー，ランチオンセミナー，スイーツセミナー，イブニングセミナー

<市民公開講座>

日時：2019年6月30日（日）

会場：パシフィコ横浜会議センター 第19会場

<その他>

6月28日（金）に医療安全講習会（看護師の立場から）を開催

6月30日（日）に医療安全講習会（医師の立場から）を開催

6月29日（土）に医療倫理講習会を開催

6月28日（金）に感染講習会を開催

6月30日（日）に日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会

第64回通常総会開催：2019年6月27日（木）16：00～横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜会議センター301+302において、開催した。定款第30条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第28条に基づき、第64回日本透析医学会学術集会・総会会長である重松 隆会長が議長を務めた。

各常置委員会から資料に基づき、平成30年度事業報告および令和元年度事業計画の報告があり承認された。一般社団法人日本透析医学会定款の一部改正について説明があり承認された。平成30年度貸借対照表および正味財産増減計算書等、監事による監査報告があり承認された。令和4年第67回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として東京女子医科大学血液浄化療法科教授 土谷 健先生を理事会で選任されたとの説明があり、本総会で承認された。

また、理事会で承認され、本総会に推薦された吉田克法先生の名誉会員表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、2019年6月29日（土）国立大ホール第一会場で授賞式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2019年5月31日・6月27日・12月6日・2020年3月22日に開催

(2) 監事による監査会開催：2019年5月14日（火）に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（満生浩司委員長）

「腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関する小委員会」を「メディカルスタッフ資格検討小委員会」に発展改称し、なお、「透析医療専門職資格検討委員会」に組織替えして、透析療法に関する専門職の資格について検討した。

「日本透析医療専門職協会（仮）設立趣意書（案）」を作成し、理事会の審議の後「日本腎代替療法医療専門職推進協会設立趣意書」として承認され、設立趣意書を基に「一般社団法人日本代替療法医療専門職推進協会定款（案）」を検討し、理事会に諮った。

(3) 感染調査小委員会（竜崎崇和委員長）

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するととも

に、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応することを目的として設置されている。

本年度は「透析施設における標準的透析操作と感染予防に関するガイドライン」改訂作業に参画し、近々に発行予定となった。新型コロナウイルス感染症が流行したため、厚生労働省から対策に関しての相談を受けた。また、日本透析医会と共に、日本透析医学会・日本透析医会新型コロナウイルス感染対策合同委員会を2020年3月28日に結成し、透析患者の感染状況の報告を取りまとめ、開示し得る情報や、感染対策法などをホームページにて開示している。

(4) 統計調査のあり方小委員会

統計調査のあり方について検討していくこととしたが、本年度は該当がなかった。

(5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

- ① 対面の委員会を開催（令和元年10月）し、2020年度の研修プログラムを令和2年10月に実施し、研修生には国際血液浄化学会（横浜）にも出席してもらうことにした。
- ② 2019年度の研修プログラムは、令和2年2月16日から23日の間、東京・神奈川地区、大阪地区、広島地区に分かれて実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染による肺炎への懸念のため、小委員会～総務委員会～学会事務局間で検討し、実施2週間前に中止を決断した。その後、研修生、研修施設には直ちに連絡し、ご理解いただいた。
- ③ 2019年度の研修生を、2020年度の研修生とともに受け入れるか否かについては、肺炎に対する懸念を勘案しながら、できるだけ早期に検討することとした。

(6) 本学会のあり方小委員会

- ① 公益法人移行のための認定申請に関し、コンサルティング業者を委託し、公益社団法人に移行するメリット・デメリットを確認した。また、税法上の優遇がどの程度の金額になるかなども検討しながら、今後も継続審議していくこととした。
- ② 現行の定款を基に、公益社団法人に移行した場合に改正が必要な定款の規定内容について確認をした。

(7) e-ラーニング検討小委員会（久野 勉委員長）

- ① 第64回学術集会・総会の教育講演を収録し、2019年11月1日から2020年2月29日までの間で会員専用ホームページにアップし、専門医は単位取得できるようにした。また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
- ② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。
- ③ 単位の認定に関しては、出題された5問全てに正解することとし、全問正解するまで何度も冒頭に繰り返し繰り返し視聴できるようにした。

(8) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）

2017年10月29日病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。その後の進捗であるが、現在まで先進医療B症例は、当該医療機関から申請されていない。

2019年度においても、申請医療機関からの修復腎移植申請のあった場合には、速やかに外部委員を派遣し、レシピエント、ドナーの双方に不利益が生じないように、先進医療を注視していく任を遂行する。

(9) 会員管理システム業者選定小委員会（土谷 健委員長）

- ① 指名業者からのプレゼンテーションを実施し、会員管理システムの委託業者を選定した。
- ② 委託業者と開発委託契約書および機密保持契約書を締結し、また、会員管理システム開発のための懸案事項について確認し、システム構築のための作業を進めた。

(10) 書籍発行運営委員会（重松 隆委員長）

- ① JSDT Book シリーズの出版パートナーを選出し、ブックシリーズの製作・出版に係る業務委受託契約書および個人情報管理に関する覚書を締結した。
- ② 出版書籍として「腹膜透析ガイドライン 2019」を 11 月に出版した。
- ③ Part 2 については、英文化し公式雑誌である RRT 誌に投稿し、Posituin Paper として、二次出版することとした。
- ④ Part 1 を各章ごとに mini-review として英文化し、RRT 誌に投稿する形で進めることとした。

6) 学会との連携, 協力関係

日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）

日本医学会連合

日本医師会

透析療法合同専門委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）

内科系学会社会保険連合

外科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明用小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）

日本透析医会との連絡協議会

日本医療器材工業会

循環器病ガイドラインシリーズ作成

感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力、連携を結んでいる。

2. 財務委員会

2019 年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、2019 年度予算を作成した。

2019 年度においては、事業を円滑に進めるため事業計画に伴う予算の補正及び 10 月 1 日からの消費税増税に伴う影響額への対応として予算の補正を行った。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、年間 12 冊を発行する。
- (2) Year in Review 2019 原稿の投稿を受け、2020 年和文誌 53 巻 12 号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を 2019 年和文誌 53 巻 12 号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。ただし郵送は希望者のみに限定する。
- (5) 年間 1~2 回を目安として特集号を組む。

2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

- (1) 公式欧文誌からの離脱を、国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と出版社である Wiley 社に伝達する（実際の離脱は計画に基づき 1 年後となる）。その事務的な手続きを進める。

3) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。
- (2) Google Scholar 並びに DOAJ, Scopus, ProQuest, EBSCO, NAVER などでの Index 化 (完了) に続き、本年度中に PubMed Central での Index 化の再申請を 2020 年中に行い登録を目指す。
- (3) 他の検索システム (Embase, MEDLINE, Science Citation Index, ESCI, Web of Science etc.) などへの Index 化も調査を行い、順次手続きを可能な限り進めていく。
- (4) 日本腎不全看護学会の RRT 誌の Official Journal 化を、(すでに両学会の理事会にて承認あり) 登録作業を進める。
- (5) 国内の関連領域他学会からの希望があれば、RRT 誌の Official Journal 化を検討する。
現在、候補となっている学会は以下である。
・日本血液浄化技術学会
- (6) 2018 年度は各学会からの合計 8 編以内の Position Statement 論文掲載を予定する。投稿があれば、一般社団法人日本透析医学会以外の Renal Replacement Therapy (RRT) を公式欧文誌として採用する学会からの Position Statement 論文も受理掲載する。
- (7) 2020 年度は投稿数 100 編を目標とする。
- (8) すでに採用済の海外からの Associate Editor 並びに Editorial Board Member をさらに増員する。なお新規には本邦在住者も増強が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦を依頼する。
- (9) 掲載論文の英文の質の向上と統計手法の正確さを追求する。その結果で、アクセプト率の低下も許容する。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

令和元年度の学会賞は次の 2 編であり、6 月 29 日の第 64 回学術集会・総会で表彰した。(敬称略)

庄司哲雄

Effect of oral alfacalcidol on clinical outcomes in patients without secondary hyperparathyroidism receiving maintenance hemodialysis : The J-DAVID randomized clinical trial.

Journal of the American Medical Association. 2018 ; 320(22) : 2325-34.

中井 滋

Is hemodialysis itself a risk factor for dementia? An analysis of nationwide registry data of patients on maintenance hemodialysis in Japan.

Renal Replacement Therapy 4 : 12.

<奨励賞>

令和元年度の奨励賞は次の 1 編であり、6 月 29 日の第 64 回学術集会・総会で表彰した。(敬称略)

三浦美佐(筑波技術大学 保健科学部)

Effects of electrical stimulation on muscle power and biochemical markers during hemodialysis in elderly patients : a pilot randomized clinical trial.

Renal Replacement Therapy 4 : 33.

2) 学術委員会活動 (ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動) 等に関する協議

- (1) 学術委員会の会合を定期的に開催し、関連小委員会と共同して学術活動に関して協議を行った。

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを、学術委員会主体で行うこととし、統計調査委員会と協力して新しい公募研究

システムを立ち上げたが、この活動をすすめる。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ (菅野義彦委員長)

栄養評価に関する委員会報告、また日本栄養療法協議会、日本腎臓学会と共同作成した「サルコペニア・フレイルを合併した透析期CKDの食事療法」を学会誌6号および7号に掲載発表した。

5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ (伊藤恭彦グループ長)

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂作業を継続して行った。

パブリックコメントを求め、公聴会を開き意見を集約し、訂正事項をホームページに公表した。理事会承認を得て最終の形とし、11月にJSDTブックシリーズ1として出版した。

6) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会 (小岩文彦委員長)

2015年から開催しているDialysis Therapy, 2018 year in reviewを第64回学術集会・総会(令和元年6月)において委員会企画として開催した。その内容を透析会誌2019;52(12):755-787に「Dialysis Therapy, 2018 year in review」として掲載した。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO対策ワーキンググループ合同委員会 (友 雅司委員長)

第64回学術集会・総会にヘモダイアフィルタの性能評価法について、学術委員会企画「Hemodiafilterの性能評価」を開催し、提案した。ヘモダイアフィルタの機能分類に必要となるフィルタの性能評価法について、牛全血系ならびに牛血漿系について検討した。

<透析排液管理ワーキンググループ>(峰島三千男ワーキンググループ長)

・日本透析医会、日本臨床工学技士会との3団体共同「透析排水管理ワーキンググループ」を通じ透析排水に関する調査報告を行い、透析排水の適正管理について検討した。その成果を「透析システムからの排水に関する調査報告」(透析会誌2019;59(7):387-395)ならびに「2019年版透析排水基準」(透析会誌2019;59(10):565-567)にまとめた。これらをもとに透析排水の適正管理に関する啓発活動を展開した。

<頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ>(峰島三千男ワーキンググループ長)

議論してきた内容を学会誌(透析会誌2019;59(9):497-531)に委員会報告した。

<ISO対策ワーキンググループ>(川西秀樹ワーキンググループ長)

ISO会議と連携し、日本の見解を反映させた。今後、IEC(International Electrotechnical Commission)においても透析関連の討議がなされることにより、ISO・IECの両者に対応するため委員会名を変更した。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

① 第64回学術集会・総会(令和元年6月)において、本小委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「血液浄化に関する新技術 from Japan to World」にて発表し、多くの出席者を集め、成功裏に終了した。

② 本小委員会で進行中のプロジェクトのうち、臨床応用に近いところにきている複数のプロジェクトについて、支援するための具体的な方策を協議した。また、委員間のコラボレーション(シミュレーションと細胞系の実験)も実現した。

③ 血液浄化法の新しい可能性を志向する他の研究会(第28回日本次世代人工腎臓研究会、令和元年9月)において、本小委員会の成果をベースに2つの特別セッションを開催し、好評裏に終了した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会 (阿部雅紀委員長)

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催について計画したが、採択にいたらなかった。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会 (友 雅司委員長)

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。
今年度は以下の3名への助成が決定した。(敬称略)

① 臼井直人

「透析中有酸素運動における運動の強度と継続時間が循環血液量、透析効率に及ぼす影響の検証」

② 小野淳一

「透析回路動・静脈波形情報と人工知能技術を用いた透析回路閉塞の迅速検知システムの開発」

③ 今井宗次郎

「起立性低血圧に伴う脳内局所酸素飽和度の変化と疲労感との関連についての検討」

(6) 透析医学用語集作成小委員会(土谷 健委員長)

透析および関連領域における用語の統一性を確立することで会員の知識および学術的な記載(論文、学術発表など)に普遍性を持たせる目的で透析医学用語集が平成19年に作成されたが、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とした。日本腎臓学会との連携を確認し、改訂作業に入った。

(7) 透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経腸栄養に関する提言検討委員会(猪阪善隆委員長)

透析患者に対する静脈栄養剤の禁忌事項記載の見直しがされる予定であり、日本透析医学会では、透析患者に対して静脈栄養剤あるいは経腸栄養剤を投与するうえでの注意点ならびに、透析患者に対する静脈栄養剤・経腸栄養剤投与は低栄養の改善に役立つかという点について、委員会で検討した。

5. 統計調査委員会

1) 2018年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査・報告

- (1) 「わが国の慢性透析療法の現況(2018年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌52巻12号に掲載した。
- (2) CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況(2018年12月31日現在)」を会員施設に送付した。
- (3) 上記の英文化・RRT誌への投稿作業中である。
- (4) 図説現況報告PPTファイル、エクセルファイルホームページ掲載、WADDAシステムへのアップロードの準備中である。

2) 2019年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査

- (1) 2020年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

3) 「わが国の慢性透析療法の現況(2017年12月31日現在)」をAnnual Dialysis Data Report 2017, JSDT Renal Data Registry (JRDR) として、Renal Replacement Therapy (2019) 5:53, DOI/10.1186/s41100-019-0248-1 として掲載した。

4) データベース整備関連

- (1) 2000-2017連結データベースを作成し、累積生存率を算出した。
- (2) データベース構築、整備方法、累積生存率の算出方法についての会員向け解説論文を作成中である。
- (3) 研究用データファイルの切り出しを効果的に行うように整備した。
- (4) 匿名化以前の過去データはすべてのパソコンから削除して、CD-ROMの移動後、事務局の金庫に保管した。

5) 透析調査解析小委員メンバ公募システムの設立

- (1) 本項を2019年度の事業計画に掲げたが、諸事情により実施することは困難であった。

6) 第64回学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

- (1) 統計調査委員会企画: 「JRDR10年の展望」
- (2) 国際セッション: “Epidemiological diversity of mortality risk in CKD-MBD and nutrition”
- (3) 教育講演: 「臨床研究に必要な統計解析」

- (4) 教育講演：「コメディカルのための臨床研究入門」
- 7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - (1) 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析，論文化を解析小委員会を中心に行った。
 - (2) 2019 年度は JRDR を用いた研究結果 英文 11 編，和文 2 編が掲載された。
- 8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために，英語版ホームページの充実に努めた。
- 9) 国内・国際協力の推進
 - (1) 米国腎臓データシステム（USRDS）に対するデータ提供は，例年通り行った。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) 外部委員を招いたデータ解析の研修会を開催した。

地域協力小委員会

- (1) 2018 年に新規に開院・閉院した施設を調査し，2019 年末アンケート調査送付施設を決定した。2019 年末調査回収のため，各地域において，未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に，統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 日本専門医機構からサブスペシャリティ領域専門医制度の機構認定に関する調査に対する回答を 2019 年 1 月に提出したが，その後，連絡はない。
- (2) 生涯教育プログラムを，11 地区の地方学術集会で実施した。なお，新型コロナウイルスの影響で，中止・延期したプログラムについて，延期の場合には，2020 年度として単位を認めることにした。
- (3) 全国規模学術集会，地方学術集会を認定すると，自動継続しているが，認定後も認定基準を満たしているかの確認は必要であり，継続に必要な書類を法人化されていない学術集会を調査する。
- (4) 委員の条件として評議員となっているが，評議員が不在の都道府県で専門医を委員にできるように規則の改訂を行った。
- (5) 腎とフリーラジカル研究会を全国規模学術集会として認定した。

2) 研修プログラム小委員会

- (1) 作成した専門研修プログラム第 2 版（カリキュラム制＋連動研修）を修正し，連動研修がない内容に修正した第 3 版を作製した。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため，本学会専門医・指導医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており，編集会議でブラッシュアップを行い，その問題を学会誌に掲載し，所定の正答率をクリアした専門医・指導医には一定の研修単位（5 単位）を認定した。なお，専門医更新・指導医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間 5 年の内 1 回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し，受付期間は 5 月 1 日～5 月 31 日迄（消印有効）で実施し問題・正解・解説は 8 号に掲載した。
- (2) 提出された e-ラーニング問題のブラッシュアップを実施した。

4) 専門医認定小委員会

- (1) 専門医受験時の PD 症例要約数（ペリトネアルアクセス留置術，導入期症例）の増加を検討したが，PD を実施していない施設が多く，2021 年度より，今まで維持 PD 症例が 1 例であったのを維持 HD 症例（5 例）と合わせて 6 例の中で，少なくとも 1 例は HD と PD を含み，導入症例は 3 例中，1 例以上 HD を

含むに変更した。また、急性腎不全血液浄化症例を急性腎不全腎代替療法症例に、一時的バスキュラーアクセス留置症例をバスキュラーアクセス留置症例に変更（長期留置カテも可）する。

- (2) ホームページの透析専門医の能力について、医療安全と感染対策の2つを追加した。
- (3) セルフトレーニング問題は専門医でないと受けられないため、透析専門医の再取得時には、申請年でのセルフトレーニング問題の正答を必須条件とした。
- (4) 専門医の適正数・地域偏在、申請者による業績基準についての誤認識などの問題を検討するために、ワーキンググループを立ち上げ、次期の小委員会に引き継ぐ。
- (5) 年次学術集会に参加し、教育講演（60分）を聴講した際に付与される5単位に加え、e-ラーニング教育講演（60分）を視聴後、出題された問題を全問正答し、3,000円を支払った時に1単位を付与する。これを専門医の申請と更新の取得単位として認めた。なお、教育講演の受講と視聴を合わせて、年間5単位までとした。

5) 専門医試験小委員会

- (1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定した。
- (2) 優良な試験問題を正答率50~70%かつ識別指数0.2~0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、すべてのプール問題の見直しを実施し、約700題を管理している。
- (3) 試験問題で、薬品名（一般名、商品名）が統一されていないため、原則、一般名とし、透析専門医としては一般名まで知らなくてもよいと考えられる薬品（新薬など）に関しては、委員長と副委員長の判断にて先発商品名の併記も例外として認めることとした。
- (4) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。
- (5) 症例要約で、外来症例を2症例可とし、その症例要約と申請者が記載したカルテコピーを提出することとした。急性腎不全症例要約で、慢性腎不全急性増悪と見受けられる症例があるため、透析を実施した慢性腎不全急性増悪を可とした。教育責任者の名前と自署を記入する欄があり、間違えて記入することがあったため、教育責任者の自署のみに変更した。入院症例要約のサンプリングを継続した。

6) 施設認定小委員会

- (1) 新しい専門医制度における専門研修基幹施設と専門研修連携施設による施設群の見直しを検討し、2019年3月時点で、基幹施設274、連携施設（病院694、クリニック277）であった。なお、2019年4月時点（施設会員数4,118）で、認定施設481、教育関連施設696、非認定施設2,941であった。

- 7) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記の通りである。

【2019年度 第30回専門医認定】

申請受付会告	2019年3号~5号
申請書類受付	2019年6月1日~6月30日
申請者数	278名
書類審査不適格者数	1名
サマリー失格	0名
申請取り下げ・辞退	1名
専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10月20日（第3日曜日）	
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	275名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	1名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	47名

客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数 228名（筆答・口頭試験 合格率 82.9%）

試験会場 都市センターホテル

適格者数 228名/278名（82.0%）

【認定期限 2020 年 3 月 31 日までの専門医更新総数】

更新対象者数 825 名
更新申請者数 820 名
更新適格者数 820 名
更新申請受付会告 2019 年 9 号～10 号
更新申請書類受付 2019 年 11 月 1 日～11 月 30 日

【2019 年度 第 30 回指導医認定】

申請受付会告 2019 年 10 号～12 号
申請書類受付 2020 年 1 月 6 日～1 月 31 日
申請者数 129 名
適格者数 97 名

【認定期限 2020 年 3 月 31 日までの指導医更新総数】

更新対象者数 298 名
更新申請者数 288 名
更新適格者数 288 名
更新申請受付会告 2019 年 10 号～11 号
更新申請書類受付 2019 年 12 月 1 日～12 月 31 日

【第 29 回認定施設・教育関連施設認定】

申請受付会告 2019 年 4 号～6 号
申請書類受付 2019 年 7 月 15 日～8 月 15 日
申請施設 認定施設 17 施設
教育関連施設 58 施設
適格施設 認定施設 17 施設（100%）
教育関連施設 58 施設（100%）

【認定期限 2020 年 3 月 31 日までの認定施設更新総数】

更新申請受付会告 2019 年 4 号～6 号
更新申請書類受付 2019 年 7 月 15 日～8 月 15 日
更新対象施設数 213 施設
認定施設 79 施設
教育関連施設 134 施設
更新申請施設数 180 施設
認定施設 70 施設
教育関連施設 110 施設
更新適格施設数 180 施設
認定施設 70 施設

教育関連施設 110 施設

【各小委員会の認定状況（2020年4月1日現在で記載）】

専門医数	6,093名	※休会者・保留者含む
指導者数	2,131名	※休会者・保留者含む
施設認定数	1,175施設	（認定施設数480施設，教育関連施設数695施設）

7. 国際学術交流委員会

1) 第64回日本透析医学会学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行った。

I. 招請講演

(1) Prof. Ann M. O'Hare Univ. of Washington (USA) “prognostic expectations of US dialysis patients.”

II. シンポジウム

(1) シンポジウム1 The Dialysis History and Status of 2019

- ① Goce Spasovski (Macedonia)
- ② Nasir AlRukhaimi Mona (UAE)
- ③ Roberto Pecoits-Filho (Brazil)
- ④ Dinh Long (Vietnam)
- ⑤ Ikechi Okpechi (South Africa)

(2) シンポジウム2 AKI in the World

- ① Khin Thida Thwin (Myanmar)
- ② Drasko Pavlovic (Croatia)
- ③ Ken-ichi Matsuda (Japan)
- ④ Kellum
- ⑤ Ikechi Okpechi (South Africa)

III. シンポジウム（統計調査委員会との共同企画）

- ① Minako Wakasugi (Japan)
- ② Kook-Hwan Oh (Korea)
- ③ Saran Rajiv (USRDS)
- ④ Stephen McDonald (ANZDATA)

IV. 一般公演 Free Communications

例年通り，公募を行った。

V. Farewell Reception

海外からの参加者，演者，国際交流委員，日本透析医学会評議員などの学術交流の場として，大会期間中にアジアの夕べを開催した。Welcome Partyについては例年通り，サポートを行った。

VI. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては，欧米演者は講演料2000ドル，交通費5000ドル，アジア演者は1000ドル，交通費3500ドルを支給，シンポジストには欧米演者には講演料1000ドル，交通費3000ドル，アジア演者には講演料10万円，交通費15万円支給することとした。一般演題に関しては，World Bank CriteriaによるLower-middle income countries, Low-income countries に対して，サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countries については年齢制限はなしとし，travel grant 10万円（ただしVISAが必要な国からの場合は旅行保険込み），Upper-middle-income countries, High-income countries については40歳以下を対象として5万円支給とした。一般演題としては21演題の発表

があり、Travel Grantとして180万円支給した。また、本邦からも17演題の英語での一般演題があった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送った。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第5回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条、21条、22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条、15条、16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第5回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とした。
- 3) 同規則第7条に基づき、令和元年会誌10号に選挙の公示をし、10月下旬に電子公告を行った。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和元年10月1日現在の有権者名簿を、会誌10号に公示し、10月下旬に電子公告を行った。
- 5) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受けた。
- 6) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受けた。
- 7) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受けたが、辞退の申し出はなかった。
- 8) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を令和元年会誌12号に公示し、12月下旬に電子公告を行った。
- 9) 12月6日の理事会において、選挙期日2月15日までの送付に関する取り扱いについて、第14条第1項ただし書きとして、選挙期日当日の消印があるもの又はこれに準ずるものを有効とする規定を追加する規則改正(案)を審議し承認された。
- 10) 同規則第13条に基づき、令和2年2月15日に投票を締め切った。
- 11) 同規則第16条に基づき、投票終了後令和2年2月20日に開票立会人のもとに、開票を行った。
- 12) 同規則第21条に基づき、当選者が決定し、当選者に通知し、会誌公示し、電子公告を行った。
- 13) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受け、「第5回日本透析医学会評議員選挙には効力がない」と題する書面の送付があり、同規則第22条に定める異議申し立てとして受付けた。
- 14) 同規則第22条に基づき、異議申し立てがあった件について委員会における検討を開始した。

9. 保険委員会

平成32年(令和2年)度の保険改定に向けて一般社団法人内科系社会保険委員会連合会(内保連)の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医会、日本腎臓リハビリテーション学会と連携して提案項目の検討を行い、内保連に下記の第一次提案をした。日本透析医学会保険対策ワーキンググループを立ち上げた。

透析液水質確保に関する研修を第64回学術集会・総会において実施した。

保険委員会企画として、第64回学術集会・総会において「透析医療における診療報酬」を行った。

一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合会(外保連)への加入を平成31年3月25日に承認され、透析用長期(短期)カテーテル留置術を現在の注射コード(G)から手術コード(K)に変更すべく、活動を開始し、手技に関するタイムスタディーを実施する予定。症例集めの方策として、当学会倫理委員会に申請し受理された。

令和2年度の保険改定要望について下記の6項目を提案したが、①のみしか医療技術評価分科会で認められな

かった。

- ① 人工腎臓導入期加算
- ② 血液透析アクセス日常管理加算
- ③ 在宅透析患者管理における遠隔モニタリング加算
- ④ 人工腎臓 回数是正
- ⑤ 感染症免疫学的検査（HIV 抗体測定）
- ⑥ 血清セレン測定（日本臨床栄養学会と共同申請）

①に関しては、令和2年度改定で、導入期加算1は300点から200点に減点となり、2は400点から500点に増点となったが、移植に関しての加算2の要件が、前年に腎臓移植を施行され透析を離脱した症例と、移植ネットワークに新規登録した患者の合計が3名以上必要と、厳しい算定要件となった。移植ネットワークに新規登録のみではなく、更新も含むべきではないかと疑義解釈を出している。

HIF-PHD 阻害薬に関し、厚生労働省と相談し、「まるめ」でも、「外出し」でも申請できるように令和2年度改定から変更となった。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 腎不全総合対策委員会調査（透析医療の患者報告アウトカムを巡る患者と医師の意識調査）および保険委員会調査（血液透析用カテーテル（カフ型、短期型）挿入に関わる手技のタイムスタディー）の倫理審査について審議し承認した。
- (3) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査10件（うち他団体との共同研究2件）について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった10件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）
14件申請があり、13件を承認し、1件不承認とした。
- (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第8条関係）
本件の申請はなかった。

4) 拡大倫理委員会

- (1) 2019年5月に新たに組織した拡大倫理委員会において調査委員会から付託された調査資料及び調査結果に基づき拡大倫理委員会における検討結果を報告した。

11. 腎不全総合対策委員会

本委員会は、保存期から透析期への良好な移行を主要な目標に活動してきたが、10年ぶりに改訂された腎疾患対策検討会の報告書において、従来からのCKD発症予防、重症化予防だけでなく、透析・移植患者のQOLの改善が目標として加わったことを考慮して、活動範囲を広げた。

調査研究

2019年度は、従来から取り組んでいる調査研究を継続するとともに、新たに2つの調査研究を計画立案し、その準備を進めた。

1) 地域における末期腎不全医療の現状と取り組み

CKD 進展予防に関しては、かかりつけ医を利用者に想定した「エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018」などが発刊され、診療の参考にされている。しかしながら、特に地方においては、初期の腎疾患の管理から腎代替療法の選択と導入に至るまで、非腎臓専門医やかかりつけ医が主治医として関わることも多い。本委員会ではこれまでに、広大な面積をもち過疎と高齢化が進んだ岩手県において、末期腎不全医療の現状について非腎臓専門医やかかりつけ医を対象にアンケート調査を行い、CKD の認知度約 85%であり、約 70%の医師が CKD ガイドラインを認知していたにもかかわらず、55%のみが活用しているという結果を得た。また、約 20%の医師に透析療法非導入の経験があった。

次のステップとして、岩手県とは対照的に自治体とタイアップした CKD 対策が進んでいる山梨県、熊本県を対象として準備を進めた。しかしながら、年度中途に地域の担当者が急遽異動し、後任が決まらなかったため、準備は完了していたにもかかわらず、実際のアンケート調査にまでは至らなかった。これは次年度に実施することとした。

2) 透析患者 QOL に関する包括的検討

近年患者中心医療の重要性が増しており、透析医療の評価に際しても、合併症発生の有無や生命予後といった客観的指標に加えて、今後は患者自身が評価する QOL といった主観的指標も重視されるものと想定される。透析患者を対象にした代表的 QOL 評価尺度としては SF36, KDQOL などが使用されているが、この尺度は腎疾患患者全体を想定した全般的健康度を評価するために開発されたもので、透析に関連した具体的な症状や状態を対象にしたものではない。

そこで、real world での透析患者 QOL 向上を目指すために、患者が苦痛に感じ、QOL を低下させている具体的な症状や要因を明らかにし、それらを標準化された尺度を用いて評価するために (1) 透析患者を対象にした国内の QOL 評価研究の実態確認、(2) 透析患者 QOL を低下させる要因の確認を行い、(3) 個別の症状に対する評価法 (尺度) を提唱するという事業を企画した。

今年度は、実態調査内容の検討を詳細に行い、倫理委員会の承認取得後、実際のアンケート送付先の選定まで進めており、次年度に、調査結果の回収、解析を行うべく計画している。

3) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況

糖尿病性腎症からの新規透析導入患者数が第 1 位であり、透析の臨床において、糖尿病合併患者が増加している。保存期糖尿病合併 CKD 患者の場合、糖尿病医と連携して血糖コントロールが行われていることは多いが、透析領域では糖尿病合併症例が増加しており、血糖管理を全て糖尿病医に委ねるのは困難な現状である。そこで、糖尿病透析患者の血糖管理状況を把握する目的で、「誰 (透析医 or 糖尿病医?) が何を指標 (随時 or 空腹時?, HbA1c or GA?) にどう管理しているのか (糖尿病治療薬の種類とコントロール状況) に関する実態調査を行うことを目的とした調査研究を立案した。

本年度は、郵送するアンケートの内容を確定し、送付が始まるまで進行した。次年度は、これを実際に進め、結果の解析に着手する。

学術大会における委員会企画

1) 横浜にて開催された第 64 回日本透析医学会学術集会において、委員会企画として、シンポジウム「良好な transition と予後に影響を及ぼす問題点を考える」を開催し、transition と予後に影響する因子を同定し、対策をどの方向性で行うかについてディスカッションを行った。

大阪にて開催予定の第 65 回日本透析医学会学術集会における委員会企画として、「高齢者腎不全医療の現在と未来」と題するシンポジウムを立案した。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理, 災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに, 災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った.

2) 災害対策小委員会 (山川智之小委員長)

(1) 第 64 回学術集会・総会 (2019 年 6 月 28 日~30 日, パシフィコ横浜) において, 災害に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「経験に学ぶ透析医療の災害対応」

司会: 山川智之, 鶴屋和彦

① 村上和春 (まび記念病院) 西日本豪雨の被害と対応について

② 川合 徹 (中央内科クリニック) 平成 30 年 7 月豪雨 (西日本豪雨) 災害による被害と対応

③ 奥田重之 (りんくう総合医療センター) 大阪府下の台風 21 号による被害と対応について

④ 古谷隆一 (磐田市立総合病院) 静岡県下の台風 24 号による被害と対応

⑤ 戸澤修平 (社団北辰クリニック 198 札幌) 北海道胆振東部地震でおきたブラックアウト~ブラックアウトを経験して

⑥ 福田誠一 (厚生労働省がん・疾病対策課) 災害時の人工透析医療の確保に係る当課の取り組み

(2) 第 65 回学術集会・総会 (2020 年 6 月 12 日~14 日, 大阪国際会議場ほか) において, 「透析災害対策のアップデート」をテーマとした災害に関する危機管理委員会企画を計画した.

(3) 日本透析医学会の理事, 危機管理委員会, 統計調査委員会, 地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し, 災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した.

3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司小委員長)

(1) 第 64 回学術集会・総会 (2019 年 6 月 28 日~30 日, パシフィコ横浜) において, 医療安全に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「透析療法における医療安全を考える」

司会: 満生浩司, 鶴屋和彦

① 遠藤ミネ子 (医療法人社団恵仁会三愛病院) 透析室における転倒・転落の現状と課題

② 内野順司 (医療法人社団誠仁会みはま病院) 透析液の濃度調製における安全対策

③ 長沼俊秀 (大阪市立大学泌尿器病態学) 透析中の急変対応について~病院の場合

④ 長尾尋智 (メディカルサテライト岩倉) 透析中の急変対応について~クリニックの場合

⑤ 小松康宏 (群馬大学医療の質・安全学) 事故発生後の対応について~マスコミ対応も含めて

(2) 第 65 回学術集会・総会 (2020 年 6 月 14 日~16 日, 大阪国際会議場) において, 医療安全に関する教育講演を計画した.

(3) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しているが, 医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して, 事故事例のセンター調査を担当している. 本年度は 2 件の依頼があり, 東北ブロックと近畿ブロックからそれぞれ, 個別調査部会の部会長 1 名と部会員 1 名を派遣した.

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」に基づき, 会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施した.

1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示

- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会会長，特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他，会員に関連した利益相反状態や，自己申告内容に関する管理を必要に応じて行った。
- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討，審査請求に関する判断マネジメントを行った。
- 6) 日本医学会 COI 管理部会の講演会に出席し，最新情報を得た。（5月30日 於 日本医師会館）
- 7) 本学会が作成する臨床ガイドラインについては，作成ワーキンググループのメンバー（外部委員を含む）が中立性と公明性をもって作成業務を遂行するために，問題となる利益相反状態の調査を勧告する。ガイドラインには「利益相反情報についての開示」に記載を促し，これを裏付けるすべての情報は日本透析医学会事務局で保管している。本学会の統計調査に基づく臨床研究についても同様に問題となる利益相反状態の調査を勧告した。

文献

日本透析医学会：日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針。2011：
<http://www.jsdt.or.jp/jsdt/1370.html>

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を継続していくこととなった。

2) 小委員会の活動

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会とそれぞれと共同し働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが，継続して検討することとなった。

(2) 女性医師育成小委員会

第1回「TSUBASA PROJECT」では7名が参加し6課題を研究中であり，第64回学術集会・総会の委員会企画において最終報告を行った。第1回「TSUBASA PROJECT」の6課題は日本透析医学会雑誌の委員会報告「TSUBASA PROJECT—透析と性」として掲載を予定し，論文化を進めている。

第3回「TSUBASA PROJECT」は東京女子医科大学東医療センターの西沢蓉子医師と，順天堂大学腎臓内科の野原奈緒医師の2名が研究を進め，研究報告は第65回学術集会・総会とした。第4回「TSUBASA PROJECT」は4人の募集に対し7人（住吉川病院の木村稚菜先生，医療法人麻の会首里城下町クリニック第二の新川葉子先生，順天堂大学医学部附属静岡病院の林陽子先生，葉山ハートセンターの福内史子先生，東京女子医科大学東医療センターの山下かおり先生，聖マリアンナ医科大学病院の大迫希代美先生，広島大学の佐藤彩加先生）の応募があり，全員を選出した。助成金は多施設研究の福内史子先生を50万円とし，その他6人はそれぞれ25万円とした。第65回学術集会・総会で研究報告を行うため，研究を進めている。

第64回学術集会・総会では「TSUBASA PROJECT」の周知させるために，女性医師育成小委員会のブースを設けた。「透析療法領域における男女共同参画実態調査」を総務委員会と合同で行うことになった。アンケート調査表を作成し，2020年度4月以降に配送予定である。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	中元秀友	平成30年6月28日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	新田孝作	同	非常勤	なし	
理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	花房規男	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	満生浩司	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	吉田一成	同	非常勤	なし	
同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宍戸寛治	平成30年6月28日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成30年6月28日～ 選任後 2年以内に終了する事業年度の 最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	荒川俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
9	同	飯ヶ谷嘉門	同	非常勤	なし	
10	同	家原典之	同	非常勤	なし	
11	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
12	同	池田裕次	同	非常勤	なし	
13	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
14	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
15	同	石光俊彦	同	非常勤	なし	
16	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
17	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
18	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
22	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
27	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
28	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
30	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
31	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
32	同	内田信一	同	非常勤	なし	
33	同	絵本正憲	同	非常勤	なし	
34	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
35	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
36	同	岡田一義	同	非常勤	なし	
37	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
39	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	
40	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
41	同	小川智也	同	非常勤	なし	
42	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
43	同	小野寺一彦	同	非常勤	なし	
44	同	小原史生	同	非常勤	なし	
45	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
46	同	笠井健司	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
49	同	要伸也	同	非常勤	なし	
50	同	金子佳照	同	非常勤	なし	
51	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
52	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
53	同	川合徹	同	非常勤	なし	
54	同	川端雅彦	同	非常勤	なし	
55	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
56	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
57	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
58	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
59	同	久野勉	同	非常勤	なし	
60	同	窪田研二	同	非常勤	なし	
61	同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
62	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
63	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	小林絵美	同	非常勤	なし	
66	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
67	同	小薮助成	同	非常勤	なし	
68	同	今裕史	同	非常勤	なし	
69	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
70	同	齋藤知栄	同	非常勤	なし	
71	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
72	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
73	同	酒井行直	同	非常勤	なし	
74	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	
75	同	櫻田勉	同	非常勤	なし	
76	同	佐々木環	同	非常勤	なし	
77	同	佐藤滋	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤 壽伸	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 正嗣	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤 真理子	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 祐二	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	重松 隆	同	非常勤	なし	
86	同	穴戸 寛治	同	非常勤	なし	
87	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
88	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
89	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
90	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
91	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
92	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
93	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
94	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
95	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
98	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
99	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
100	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
101	同	高橋 計行	同	非常勤	なし	
102	同	高橋 延行	同	非常勤	なし	
103	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹岡 浩也	同	非常勤	なし	
106	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
107	同	竹中 恒夫	同	非常勤	なし	
108	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
109	同	田邊 一成	同	非常勤	なし	
110	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
111	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
112	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
113	同	田村 禎一	同	非常勤	なし	
114	同	田村 雅仁	同	非常勤	なし	
115	同	土谷 健	同	非常勤	なし	
116	同	鶴岡 秀一	同	非常勤	なし	
117	同	鶴屋 和彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
126	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
127	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
128	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
129	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
130	同	長田太助	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
133	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
134	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
135	同	名波正義	同	非常勤	なし	
136	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
137	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
138	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
139	同	西一彦	同	非常勤	なし	
140	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
141	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
142	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
143	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
144	同	新田豊	同	非常勤	なし	
145	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
146	同	野口智永	同	非常勤	なし	
147	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
148	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
149	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
151	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
152	同	服部元史	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
155	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
156	同	林晃一	同	非常勤	なし	
157	同	林晃正	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	林 秀 樹	同	非常勤	なし	
159	同	速 見 浩 士	同	非常勤	なし	
160	同	原 澤 信 介	同	非常勤	なし	
161	同	原 田 浩	同	非常勤	なし	
162	同	春 口 洋 昭	同	非常勤	なし	
163	同	樋 口 輝 美	同	非常勤	なし	
164	同	兵 藤 透	同	非常勤	なし	
165	同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
166	同	廣 谷 紗 千 子	同	非常勤	なし	
167	同	深 川 雅 史	同	非常勤	なし	
168	同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
169	同	深 水 圭	同	非常勤	なし	
170	同	藤 井 秀 毅	同	非常勤	なし	
171	同	藤 森 明	同	非常勤	なし	
172	同	古 井 秀 典	同	非常勤	なし	
173	同	古 谷 隆 一	同	非常勤	なし	
174	同	本 田 浩 一	同	非常勤	なし	
175	同	前 田 国 見	同	非常勤	なし	
176	同	前 田 益 孝	同	非常勤	なし	
177	同	前 野 七 門	同	非常勤	なし	
178	同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	
179	同	升 谷 耕 介	同	非常勤	なし	
180	同	松 岡 哲 平	同	非常勤	なし	
181	同	松 下 和 通	同	非常勤	なし	
182	同	松 橋 尚 生	同	非常勤	なし	
183	同	丸 山 範 晃	同	非常勤	なし	
184	同	丸 山 之 雄	同	非常勤	なし	
185	同	三 瀬 直 文	同	非常勤	なし	
186	同	溝 渕 正 英	同	非常勤	なし	
187	同	満 生 浩 司	同	非常勤	なし	
188	同	三 股 浩 光	同	非常勤	なし	
189	同	三 宅 秀 明	同	非常勤	なし	
190	同	宮 田 昭	同	非常勤	なし	
191	同	向 山 政 志	同	非常勤	なし	
192	同	村 上 円 人	同	非常勤	なし	
193	同	森 石 み さ き	同	非常勤	なし	
194	同	森 下 義 幸	同	非常勤	なし	
195	同	安 田 日 出 夫	同	非常勤	なし	
196	同	矢 内 充	同	非常勤	なし	
197	同	柳 田 太 平	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
199	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
200	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
201	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
202	同	山下 芳久	同	非常勤	なし	
203	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
205	同	横尾 隆	同	非常勤	なし	
206	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
207	同	横山 仁	同	非常勤	なし	
208	同	吉岡 伸夫	同	非常勤	なし	
209	同	吉田 一成	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 理	同	非常勤	なし	
211	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
214	同	若井 幸子	同	非常勤	なし	
215	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺田 直輝	同	非常勤	なし	
217	同	和田 篤志	同	非常勤	なし	
218	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	218名	なし	
合計	241名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2020年3月31日現在	2019年3月31日現在		
正 会 員	13,951	13,824	127	
施設会員	4,133	4,107	26	
賛助会員	60	62	-2	
名誉会員	43	45	-2	
計	18,187	18,038	149	

③ 職員に関する事項

平成 31 年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	坂 入 幸 雄	平成 30 年 4 月 1 日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年5月31日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 入会・退会に関する件 平成30年度日本透析医学会定款の一部改正（案）に関する件 元号「令和」に改まったことに伴う会則の「平成」を一括改正することに関する件 委員会の名称変更に関する件 令和元年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 平成30年度事業報告（案）に関する件 平成30年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 平成30年度監事による監査報告に関する件 第64回通常総会開催に関する件 年次学術集会開催時の他学会との合同企画シンポジウムに関する件 一般社団法人日本透析医療専門職協会（仮）設立に関する件 統計調査を用いた倫理審査関連のCOI事項の確認に関する件 「腹膜透析ガイドライン2019」に関する件 委員会報告「透析システムからの排水に関する調査」に関する件 委員会報告「慢性透析患者における低栄養の評価法」に関する件 委員会報告「サルコペニア・フレイルを合併した透析期CKDの食事療法」に関する件 委員会報告「頻回・長時間透析の現状と展望」に関する件 「カルニチン欠乏症の診断・治療方針2018」に関する件 第64回学術集会・総会開催時の各賞表彰次第（案）に関する件 日本感染症学会との合同シンポジウムに関する件 Renal Replacement Therapy (RRT) 誌に関する件 「腹膜透析ガイドライン2019」に関わるCQの論文化に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会 ・財務委員会 令和2年3月13日	「該 当 な し」 1. 2020年度予算(案)について 2. 2020年度新規事業計画およびそれに伴う概算要求(案)について	全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会 欧文誌運営委員会 和文誌運営委員会	「該 当 な し」 「該 当 な し」 「該 当 な し」	
・学術委員会 平成31年4月26日	1. 学会賞・奨励賞の選考について 2. 委員会報告「慢性透析患者における低栄養の評価法」について 3. 「サルコペニア・フレイルを合併した透析期CKDの食事療法」について 4. 腹膜透析ガイドラインについて 5. 名誉会員・学会賞・奨励賞およびコメディカルスタッフ研究助成授与式について 6. 平成30年度事業報告(案)について 7. 統計調査委員会より研究(ESA種別のアウトカム研究)に関するCOI審査について 8. 第64回学術大会の学術委員会企画について 9. 第64回学術大会での学術委員会企画「Year in Review 2018」についての論文数, 内容等のアウトラインについて 10. 透析排液管理ワーキングの活動状況について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・統計調査委員会 令和元年6月10日	1. 2018年末調査のまとめ 2. 2018年末調査の集計結果まとめ案 3. WADDAシステムの検証について 4. 今後の統計調査の方針, 2018年調査項目・選択肢の検討 5. ISNにおける海外レジストリ強調体制の報告・今後のJRDRの報告性 6. 2019年調査項目・選択肢の検討 7. 解析研究CQ一覧 8. 小委員会の正式名称の確認 9. 解析小委員会研究内規の再整備 10. 2017年現況報告RRTへの投稿状況報告, USRDSへのデータ提供報告 11. 解析小委員会からの報告 12. 2018年度学術集会のスケジュール	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和元年8月19日	1. 株式会社メイトコムとの今期契約内容確認, 名寄せシステム・DB管理改修に関する検討 2. 2018年調査について 3. 2019年調査について 4. 2017年現況報告RRTへの投稿状況報告 5. 海外レジストリの調査票の共有について 6. 「統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」の一部改正について 7. 解析小委員会審議もしくは承認された研究 8. 他団体からの共同研究申請に関する審議 9. 戦略的CQのCKV-MBD 10. WADDAシステムの公開について 11. 地域協力委員について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和元年10月28日	1. 2019年調査の進捗状況について 2. 2018年調査 会誌12月号現況報告について 3. 2019年調査の出力内容について 4. 2018年WADDAシステムについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年 10 月 28 日	5. 「統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」の一部改正について	報告・承認
	6. 解析小委員会研究・他団体からの共同研究 進捗状況報告等について	報告・承認
	7. 第 65 回日本透析医学会委員会企画について	報告・承認
	8. 2017 年調査, 2018 年調査の解析計画の検討/戦略的 CQ 案	報告・承認
	9. SharE-RR の参加について	報告・承認
	10. 地域協力委員 (千葉県を選任) について	報告・承認
令和 2 年 1 月 24 日	11. 2018 年各項目の回答率についての報告について	報告・承認
	1. 2019 年調査の経過報告と今後のスケジュールについて	報告・承認
	2. 2020 年度事業計画の検討, 概算要求について	報告・承認
	3. WADDA システムについて	報告・承認
	4. 「統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」の一部改正について	報告・承認
	5. 次年度解析小委員会の公募について	報告・承認
	6. 解析小委員会研究・他団体からの共同研究	報告・承認
	7. SharE-RR 経過報告について	報告・承認
	8. 第 65 回日本透析医学会委員会企画について	報告・承認
	9. 2017 年調査, 2018 年調査の解析計画の検討/戦略的 CQ 案の解析について	報告・承認
	10. 腹膜透析患者の腹膜炎治療における抗菌薬の投与方法の違いについて	報告・承認
	11. 中井滋先生執筆中の論文の共著者として若井建志先生を加えることについて	報告・承認
・ 専門医制度委員会 令和元年 11 月 16 日	1. 2019 年度 第 30 回 専門医認定試験判定結果について	全会一致で承認
	2. 2019 年度認定施設・教育関連施設(新規・更新)審査結果報告について	全会一致で承認
	3. 専門医認定小委員会からの提案について	全会一致で承認
	4. 専門医制度規則・施行細則の一部改正(案)について	全会一致で承認
	5. その他	全会一致で承認
令和 2 年 3 月 14 日	1. 認定期限 2020 年 3 月 31 日までの専門医更新申請審査結果について	全会一致で承認
	2. 2020 年度 第 30 回 指導医認定申請審査結果について	全会一致で承認
	3. 認定期限 2020 年 3 月 31 日までの指導医更新申請審査結果について	全会一致で承認
	4. 地方学術集会, 生涯教育プログラム, 全国規模学術集会について	全会一致で承認
	5. 2020 年度セルフトレーニング問題作成について	全会一致で承認
	6. その他	全会一致で承認
・ 国際学術交流委員会 令和元年 8 月 31 日	1. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会 委員会企画プログラムの振り返り及び予算の件	報告・承認
	2. 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会 委員会企画プログラムの立案に関する件	報告・承認
	3. 国際交流委員会で招聘した先生の旅費, 謝礼の件	報告・承認
	4. 国際交流委員会で招聘した先生の VISA, 保険, 保証の件	報告・承認
	5. 委員会企画のワークショップ等で招聘した先生に RRT に執筆依頼する件	報告・承認
	6. Welcome party, Farewell party (アジアの夕べ) の件	報告・承認
	7. 第 65 回日本透析医学会学術集会会長との申し合わせ事項について	報告・承認
	8. その他	報告・承認
・ 評議員選出委員会 令和元年 9 月 26 日	1. 第 5 回評議員選出日程(案)について	全会一致で承認
	2. 評議員選出公示について	全会一致で承認
	3. 地方区定数の公示について	全会一致で承認
	4. 有権者名簿の公示について	全会一致で承認
	5. 評議員立候補申請書について	全会一致で承認
令和元年 12 月 5 日	1. 会告 第 5 回評議員選挙の立候補者について	全会一致で承認
	2. 第 5 回評議員立候補者数について	全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年12月5日 令和2年2月20日	3. 会告 第5回評議員選挙立候補者氏名について 4. 立候補条件抵触者の取扱いについて 5. 有権者異議申し立て者の取扱いについて 6. 会告 第5回評議員選挙の有権者の訂正及び追加について 7. 投票用紙及び投票に関する注意事項について 8. 評議員選出規則の一部改正(案)について 9. 開票立会人の選出について 1. 開票立会人について 2. 第5回評議員選出に関わる開票について 3. 第5回評議員当選に関わる公示について 4. 選挙効力に関して異議の申し立てについて 5. 当選者の繰上げ, 補充について 6. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 令和元年8月2日 令和2年1月24日	1. 透析膜面積に関する問題について 2. 透析用カテーテル留置術に関してのタイムスタディーについて 3. オルケディア, パーサビブのPTH, Ca, Pi測定などの厚労省への手紙の進捗状況の確認について 4. VAステントの件について 5. 内保連への申請, ヒアリングの状況報告について 6. 遠隔医療の件について 7. 第65回日本透析医学会学術集会での保険委員会企画に関して 8. その他 1. ホームページ(HP)掲載の件について 2. 2020年学術集会・総会の保険委員会企画の内容と演者について 3. 長期(短期)カテーテル挿入術のタイムスタディーについて 4. 令和2年度改訂への申請結果と, 今後につなげるべき項目の検討 5. 透析排水水質確保に関する研修会について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 令和元年10月25日 令和2年3月10日	1. 日本透析医学会統計調査に関わる臨床研究審査について 2. 「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針(改定第1案)」について 1. 腎不全総合対策委員会「透析医療の患者報告アウトカムを巡る患者と医師の意識調査」に関する倫理審査について 2. 保険委員会「血液透析用カテーテル(カフ型, 短期型)挿入に関わる手技のタイムスタディー」に関する倫理審査について 3. 日本医学会連合「臨床研究法の見直しに関する要望書」の報告について	全会一致で承認 報告・承認 全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和元年10月3日	1. 活動報告について 2. 第65回日本透析医学会学術集会における委員会企画について 3. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 腎臓病臨床経済協議会	理 事	一 部
常任理事	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		大阪透析研究会	幹 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	一 部
		一般社団法人 日本アフェリシス学会関西地方会	代表理事	一 部
		公益財団法人 わかやま移植医療推進協会	評議員	一 部
	新 田 孝 作	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
理 事	熊 谷 裕 生	日本循環制御医学会	理 事	関係なし
	酒 井 謙	一般社団法人 日本臨床腎移植学会	幹 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	幹 事	ほぼ同一
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	関係なし
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフェリシス学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本病態栄養学会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		深 川 雅 史	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事
	深 澤 瑞 也	一般社団法人 日本 CKD-MBD 研究会	代表理事	一 部
		深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事
	森 石 み さ き	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	関係なし
	吉 田 一 成	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
		NPO 法人 いつでもどこでも血液浄化インターナショナル	理 事	一 部
		一般社団法人 日本移植学会	理 事	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
監 事	宍 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	専務理事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部
前 野 七 門	医療法人仁楡会 仁楡会病院	理 事		

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない